

# 厚岸町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

厚岸町の公共交通は鉄道と定期バス路線で構成され、地域住民の通勤、通学、通院、買い物などの足として重要な役割を果たしてきました。

しかし、公共交通の利用者数は、人口減少や自家用車の利用により年々減少し、効率的な運行が難しい状況にあり、今後の鉄道や路線バスの維持が困難となっています。

こうした状況下において、近年の急速な少子化に伴い、スクールバスが運行しない地域が発生しており、また、高齢者の運転免許証の返納が進み、個別の交通手段を持たない町民が増加する中、現在の交通体系では交通空白地域が拡大し、町民の生活の足が確保できなくなることが危惧されています。

厚岸町において、デマンドバスの運行によって郊外部と市街地を結ぶ路線で、地域の核であるJR厚岸駅を乗継拠点として幹線交通への接続性を確保し、面的に厚岸町をカバーするための路線となっており、今後の厚岸町の地域公共交通ネットワークの構築とその確保・維持に必要不可欠な事業であります。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- ・1ヶ月当たりの利用者数を194人とした。

## 令和2年度事業概要

- 郊外部と市街地を結ぶデマンドバスの運行
  - (1)末広・床潭・筑紫恋線(末広～床潭～筑紫恋～厚岸駅)
  - (2)上尾幌・片無去線(上尾幌公営住宅前～片無去～町立病院)
  - (3)苦多線(上尾幌入口～尾幌・苦多・門静～町立病院)
  - (4)大別・太田線(大野前～太田～町立病院)
  - (5)トライベツ・若松・糸魚沢線(旧糸魚沢小学校～トライベツ・若松～厚岸駅前)
- 車両減価償却費国庫補助金を活用し、車両購入((1),(2),(5)の系統で使用)

## 地域公共交通の現況

- ・JR根室本線(上尾幌駅、尾幌駅、門静駅、厚岸駅、糸魚沢駅)
- ・くしろバス(株)(2路線)
- ・スクールバス(町内8路線)
- ・保育所児童通園支援バス(1路線)
- ・厚岸町デマンドバス(町内5路線)

## 協議会開催状況

- 7月10日 令和2年度第1回厚岸町地域公共交通活性化協議会を书面開催
  - ・令和2年度事業計画(案)
  - ・地域内フィーダー系統確保維持計画(案)
- 1月13日 书面協議において決定
  - ・地域内フィーダー系統確保維持計画に係る事業評価(案)

# 令和2年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

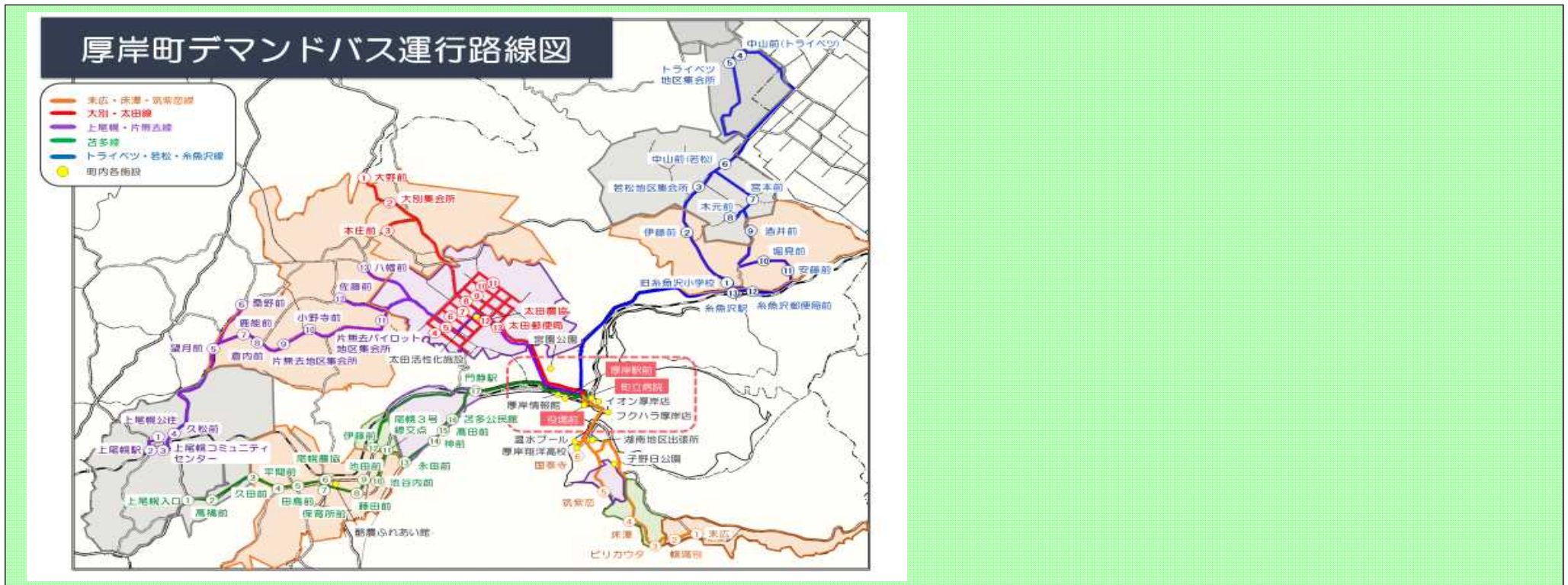
### 【プロセス】

- ・平成28年度に厚岸町地域公共交通活性化協議会を発足、町内公共交通の状況及び住民意識調査、町内地域公共交通の検討
- ・平成29年度に厚岸町における既存地域公共交通事業の見直しと新しい地域公共交通事業の構築検討
- ・平成29年度に厚岸町で導入を予定するデマンドバス事業に関する住民説明会、アンケート調査、バス乗降調査、実証運行試験の実施  
厚岸町地域公共交通網形成計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)を策定
- ・平成30年10月1日からデマンドバス運行開始
- ・令和2年度に乗客へのアンケート調査を実施

### 【創意工夫】

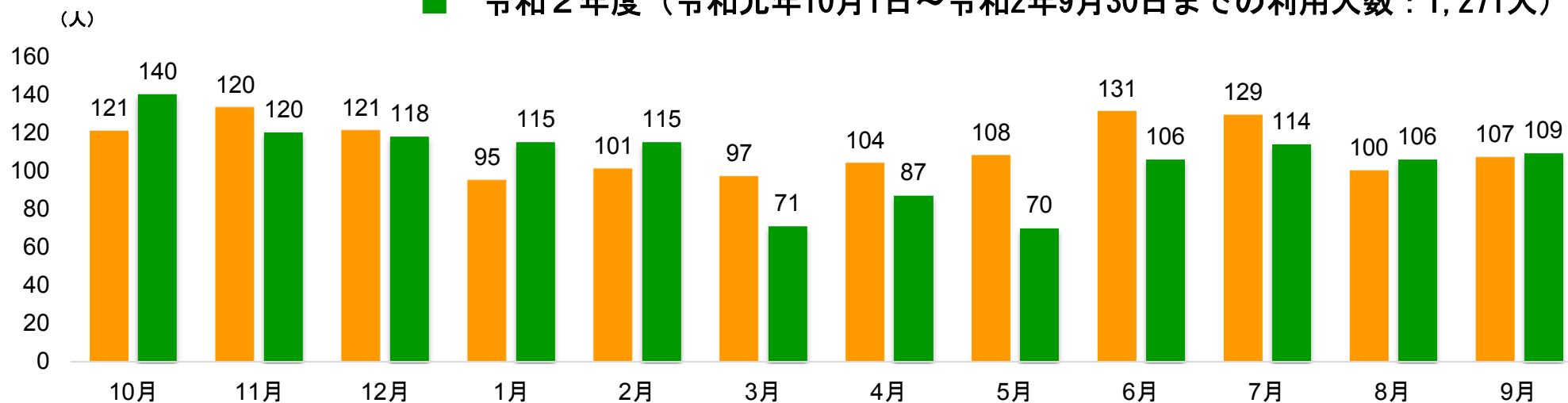
- ・フィーダー系統／デマンド型と位置付け、地域間幹線系統との円滑な接続を行うためのダイヤ調整
- ・デマンドバス運行開始に伴い、患者輸送バスの廃止。
- ・スクールバスへの一般混乗

## 2) 運行系統



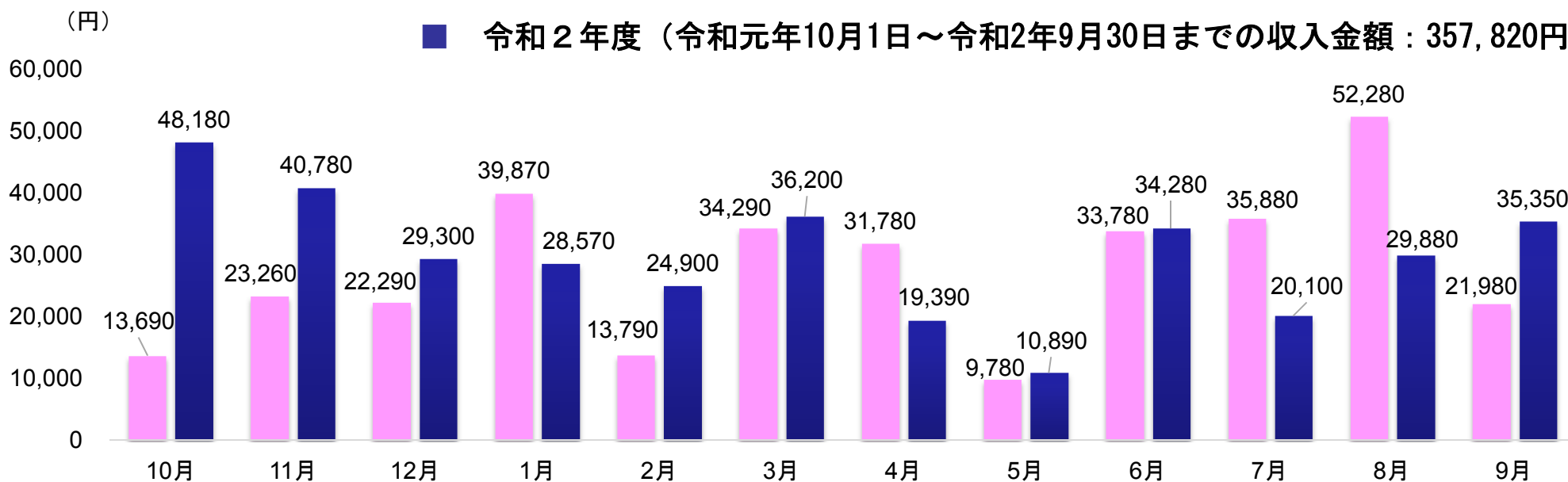
### 3) 利用実績

- 令和元年度（平成30年10月1日～令和元年9月30日までの利用人数：1,347人）
- 令和2年度（令和元年10月1日～令和2年9月30日までの利用人数：1,271人）



### 4) 収入実績

- 令和元年度（平成30年10月1日～令和元年9月30日までの収入金額：332,670円）
- 令和2年度（令和元年10月1日～令和2年9月30日までの収入金額：357,820円）





## 5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

## 6) 目標・効果達成状況

1ヶ月の利用者数の目標は194人としていたが、利用実績として105.9人であり、目標達成とはならなかった。

個別の移動手段を持たない町民にとってはデマンドバスの運行により移動手段が確保され、利便性の向上が図られており効果はあった。

### 各路線ごとの達成状況

(1)利用人数 目標66人/カ月に対して実績47.5人/カ月、72.0%となっている。

理由 利用者の多くは高校生と高齢者であり、学生の乗車回数の減少(新型コロナウイルス感染症の発生による学校の休校)や高齢者の通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染症の発生による外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

(2)利用人数 目標51人/カ月に対して実績38.7人/カ月、75.9%となっている。

理由 利用者の多くは高齢者であり、通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染症の発生による外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

(3)利用人数 目標6人/カ月に対して実績3.8人/カ月、63.0%となっている。

(4)利用人数 目標19人/カ月に対して実績2.7人/カ月、14.2%となっている。

理由 利用者の多くは高齢者であり、同居家族の送迎(通院及び買い物)や利用地域人口の自然減によることが、目標値へ到達しない要因と思われる。

(5)利用人数 目標52人/カ月に対して実績16.3人/カ月、31.3%となっている。

理由 利用者の多くは高齢者であり、通院回数の減少及び新型コロナウイルス感染症の発生による外出自粛が目標値へ到達しない要因と思われる。

## 7) 事業の今後の改善点

人口減少による利用者の減少も懸念されるが、高齢者の運転免許証の返納により個別の交通手段を持たない町民が増え、交通空白地域が解消される見込がないことからデマンドバスの運行は今後も必要である。

他の公共交通との接続性を調整し、自治会長や民生委員から地域の状況について聞き取り調査を行い、住民ニーズの把握をし、今後も事業内容を検証し、改善点を確認しながら必要に応じて見直しを行う。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、目標を達成することができなかったが、今年度実施したアンケート調査の分析・検証により、利用者ニーズのくみ上げを行うとともに、地域公共交通網形成計画に基いた利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。